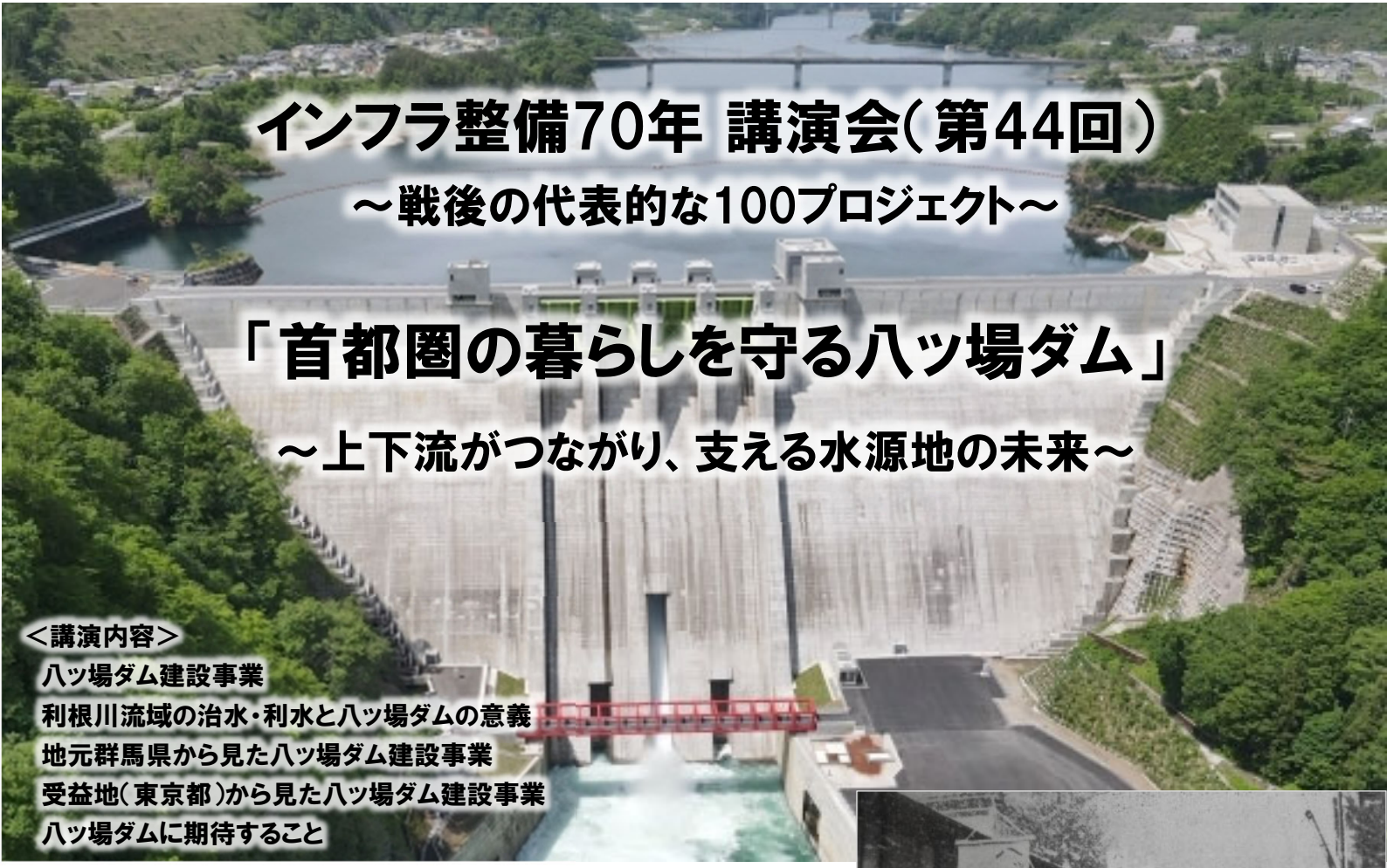

インフラ整備70年 講演会（第44回）

～戦後の代表的な100プロジェクト～

「首都圏の暮らしを守る八ッ場ダム」

～上下流がつながり、支える水源地の未来～

＜講演内容＞

八ッ場ダム建設事業
利根川流域の治水・利水と八ッ場ダムの意義
地元群馬県から見た八ッ場ダム建設事業
受益地（東京都）から見た八ッ場ダム建設事業
八ッ場ダムに期待すること

＜講演者＞

朝田　将　内閣府（防災担当）参事官（元八ッ場ダム工事事務所長：完成時）
虫明功臣　東京大学名誉教授
中島　聡　群馬県住宅供給公社理事長（元群馬県県土整備部長）
尾根田勝（独）水資源機構監事（前東京都水道局技監）
陣内孝雄　元法務大臣・元参議院議員（元八ッ場ダム工事事務所長）

上　：現在の八ッ場ダム・八ッ場あがつま湖
右下：着手当時の地元反対の様子
写真提供：群馬県吾妻郡長野原町

2023年 10月16日（月）

講演会：15:00～17:00（入室開始予定：14:40～）

場所：ZOOMウェビナーによるWEB配信　　定員：1,000名

終戦直後に発生したカスリーン台風は、利根川に堤防決壊をもたらし、その浸水被害は遠く東京湾近くまで及んだ。この大規模水害を機に計画された八ッ場ダムは、昭和27年の調査着手から約70年を経て、令和2年から運用を開始した。

首都圏の治水・利水面で大きな役割・効果を担うにもかかわらず、地元の理解・協力を得るまでに長期間を要した背景には、道路、河川事業等と異なるダム事業特有の課題があった。一方、ダム本体建設では、名勝地の保全に配慮するとともに、生産性革命に沿った新技術活用、高速施工に取り組み、結果、令和元年東日本台風前に試験湛水を開始した。

本講演では、これら八ッ場ダム建設事業を巡る社会情勢を踏まえた経緯や取組等について、事業主体である国、地元・水源県、受益地それぞれの立場から紹介する。

（本講演会は、建設コンサルタンツ協会CPDプログラムとして認定されております）

主催：（一社）建設コンサルタンツ協会　　後援：（公社）土木学会